

# 岡田静佳さん 「岡田議員」と 「しずかちゃん」の間

新聞をみて、驚いた。そして、うれしくなった。現役女子大生がトップ当選で市議に、それが中央大学生でしかも同じ学科の——岡田静佳さんだった。議員になって感じたものはなんだろう。そして大学でのありのままの姿。現役大学生市議ならではの実感と抱負……。 「話題の人」の笑顔の素顔に出会った。

文＝学生記者 谷ちひろ(法1年)  
カメラ＝同 町田梨絵(商1年)

## トップ当選市議の初質問

《21議員クラブの岡田しずかでございます。私は、先の選挙で、

「岡田しずかは市民の皆様のお声をきちんとお聞きし、市政に確実に届けてまいります。そして、実現させるために全力でがんばります」

ということをお約束し、様々な市民の方から多くのご意見・ご要望を頂き、この議会に送っていただきました。

所沢市がより安心して暮らせるすばらしいまちになるように、一生懸命働いて参りますのでよろしくお願いたします。

本日は、4点お伺いいたします。

1 点目は市政への市民参加について。2 点目は……》

6月20日——議員としてはじめて一般質問に立った。所沢市議会6月定例会。言語明瞭、あがった様子もなく、写真(左ページ)で見てもとくに笑顔さえこぼれている。

とはいえ、すべてが初めての世界。大変だったそうである。

「最初の原稿作りで詳しい人に

ちよつと見てもらったら、『これじゃ回答は返ってこないよ』って言われて。質問の内容はいいんだけど、言い方が悪いって。ここで『お伺いします』って言わないと回答が返ってこないんだよ、と。とにかく一般質問の仕方もわかんなくて、もう……泣きながら原稿を作って、やっどできました(苦笑)」

統一地方選の第2弾、4月27日に行われた所沢市議選の上位得票結果(選管確定)をみておきたい。立候補52人、定数36。

当	4658	岡田しずか	無新
当	4536	本橋栄三	無現
当	3850	中たけし	無現
当	3725	小川京子	公現
当	3717	中村とおる	無新
……			

フタを開けてみたら、現職勢を抑えて、無名の「現役女子大生がトップ当選」と、新聞・埼玉版の話題をさらったのである。ローカル版だけではなく、東京新聞全国版の「顔」欄(6月22日付)にも。私が見たのはその記事だった。



学生として 元気に、活発に。ゼミの仲間と一緒に＝辻山ゼミ



議員として 初質問に立った岡田静佳議員  
＝6月20日所沢市議会

### 素顔の多摩キャンパス

——7月12日、多摩キャンパスに岡田さんの姿があった。

「しずかちゃんー」「久しぶり、元気？」「しずかさん、久しぶり！」。岡田さんが教室に入ると、あちこちから声がかかり、とたんににぎやかになった。土曜3限、辻山幸宣教授ゼミ「地方分権」のクラス。4月選挙、そのあと6月までの市議会日程で、4年次はあまり授業に出席できない日々。ゼミの仲間たちと会うのもその日が初めてだった。

岡田さんはいえ、もうフツウの学生そのままである。すぐに中に溶けこんで授業で「少子化問題」のテーマになると、「選挙公約にかかげて取り組んでいる問題ですが、例えば……」などと発言の具体性が、「議員」の重み、といえはいいか。

カラカラと楽しそうに笑って言う。「私なんかオバサンだしさあ、大

学では友達なんてできないって思っ

て……入学する時は不安でたまら

なかった。でも意外と友達ができ

ちゃってね。みんなに『しずかちゃん

しずかちゃん』って呼ばれて、なん

かフツウに溶けこんじゃった。たぶ

ん1浪とか2浪の人と同じ感じで、

「8浪みたいな(笑)。26の時に入っ

たんですけど、言わなきゃ年なんて

わかんないですよ(笑)」

ホントに、29歳とはとても。21

歳の現役組の人たちと同じに見え

ますよ。見た目も、気分も。言葉の

ひとつひとつがさっぱりとしていて、

それにこんなキャラクター。

3年次のゼミで岡田さんをよく知

る法学部の石川敏行教授(行政法)

が語る。「しっかりしてるんだけど、

愛嬌があるっていうか。ちよつとヌ

ケのともあるから、だからちよつ

どバランスはいいんでしょうね。あ

んまりまたピリピリしてると困るん

だけどさ。どっかスポーンとヌケて

るっていうか(笑)。だけどそれが

また憎めない。まあ、いいんじゃない

いですかねえ。なかなか得難いキャ

ラクターではないかと私は思っ

すがね(笑)」

おかだ・しずか 1973年東

村山市生まれ。埼玉県立狭山経

済高を出て92年石川島播磨重工

業に入社。OL生活8年、秘書

などをつとめたあと、00年退社

し、同年中央大学入学。家庭で

は8歳違いの夫(豊さん)と二

人暮らし。

大学では「政治学会」のサークル

に所属して、一から勉強したとい

う。「やっぱり政治のことをしっかり

考えている人が多かったですね。議

員インターンシップに参加したり、

議員さんのパーティや講演会に連れ

て行ってもらったり、そうやって政

治の世界に触れるようになった。立

候補を決意したのは大学3年の時で

すね」

——その時のご家族の反応は？

「え、ホントにやるの？って。で、

私は『もう出るって決めたから』と

強行突破しました(笑)。私の両親

も『自分で決めて、やりたいことは

やりなさい』って感じで、選挙の時

もすぐく一生懸命手伝ってくれたんです」

そう言うてから、

「でもね、ホントは『所沢のゴミ問題を考える前に、自分の家をキレイにしなさい』って言われて(笑)」  
クスツと肩をすくめた。

## 時間のかかる民主主義

### 議会の「？」体験

立候補を決意したのが去年の夏ごろ。「若手政治家養成塾」に入り、立候補の手續きなどを含めて実践的な政治の勉強を始めた。若い議員らが講師になって、「地盤」「看板(知名度)」「カバン(資金)」のない政治家志望の人たちを育てる集まりらしい。

「でも、教えられた通りに、駅で1人でチラシを配っていたら、美容院のチラシ配りと間違えられたり、ヘンな人と思われたり。しかし、地元のお店街の皆さんが応援してくださったのがきっかけで、支援の輪が広がり、いつのまにか青年部ができて若い人がお手伝いしてくださいました」

そして最初の市議会を終えての、

最初の感想。

「議会っていうのは、なんか形式ばっているなあって、それが第一。手續きとかが面倒だったり、時間がすごくかかる。例えば誰も反対しないような市長提出議案でも審議するし、議案によっては無記名投票にするか記名投票にするかの採決にはじまって、採決までの手續きがそりゃ大変なんです。それは民主主義だからしょうがないし、大切なことなんですけど、とにかく時間がかかります。民間会社だったらととくに潰れてる(笑)」

一般質問で取りあげた4項目は、「審議会などを含めた市政への市民参画」のほか、「少子化対策の視点から働く女性の支援」「高齢者福祉」「出張所の適正配置」。

「質問の仕方も独特なんですか？と聞いたら、「それがね、最初の原稿作りで『これじゃ回答は返ってこないよ』って言われまして」という冒頭の発言になる。

「例えば、市民参画について自分の意見を述べるとしますよね。これからは市民が市政に参加していくべきだ、とかいろいろ。で、最後に『担

当部長にお伺いします。市民参画についてはどうお考えですか？』って言えば、回答が返ってくるわけですよ。ところがそういうふうに『お伺いします』と言わないで、『私は市民参画は進めるべきだと思います。今後ともそうしていただきたい』って言うのと、それは要望で終っちゃう。回答は返ってこないんです」

「つまり、向こうはするともしないとも答えなくていいわけですか？」

「そうそう。自分の意見を言っているだけだから。でもわかんないですよ。一時間もしゃべる原稿作って、それを書き直してやっど。

それと「ヒアリング」っていうのがあるんですよ。事前に自分が何を聞きたいか、「通告書」っていうのを出しまして、それでその担当課の人が聞きに来るんです。当日に質疑応答がうまく噛み合うように。たしかに、いきなり『じゃ、保健福祉部長にお聞きします。高齢者の体力づくりについて、筋力トレーニングはどのように実施されていますか』と聞いても、向こうも困る。資料も何もないから。だから事前に質問の内

容を聞きに来るんだけど、そうすると、なんだか「出来レース」的って言えばそうですけど、逆にそうすることによってしつかりとした回答も返ってきますから」

「その中で市民感覚とずれていってるな、と感じたところは？」

「例えば、高齢者の体力づくりについて聞くと、

『高齢者について聞きたいのか、それとも体力づくりについて聞きたいのか』  
と言われるんです。それぞれ担当の課が違ふと。それはやっぱり、民間人の感覚からいうとおかしいなって思ったところ。私は「高齢者の体力づくり」を質問したいわけですよ。ところがそういう課がないから、

『高齢者のことだったら私(保健福祉部)が答えるし、体力づくりだったら教育課が担当します』  
ってことになっちゃう。それはね、

「ところで岡田さんの、選挙時の政策の中には「ゴミ袋の有料化によるゴミの減量化」もありますね。それなんですけどね……選挙の時に、市民の皆様のお声をきちんと

お聞きしようと思って、市政に対するアンケートを配ったんです。それならものすごくたくさん意見をいただきました。大賛成って人もいるけれど、ゴミ袋の有料化には反対とずいぶん叩かれました。だからこのへんはもうちょっと調べて、いろいろ勉強してからきちんと思えないといけないな、と学んだ点です」

勉強することはたくさんある。議会の特殊な仕組みや言葉づかいもそうだし、ゴミ問題にしても実際にゴミ収集車に乗ってみたいと実情はわからないから、と実地体験をしたいと考えている。「何も知らないで発言するのは危険ですから」

## トップ当選のプレッシャー

ともあれ、市民の率直な意見に真剣に耳を傾け、地元の人たちと一緒に政治を変えていこうと、低い視線と謙虚な姿勢が身上だ。

「議員といつてもね、講演会とか会合とか行くと、みなさんだいたい私より先輩なんですよ。だからそこはもう議員だつてことは脇に置いて

といて、『後輩ですから可愛がってください』ってやってる(笑)。だから、議員らしくないってよく怒られるんですよ。見た目とか。でも議員だからって威張ってもしようがないんだよねえ」

——ご自分で、トップ当選した理由は何だと思えますか？

「期待票ですかね。何かしてくれそうだという、まあ、若いし、女性だし。『自転車選挙』でよくがんばったので応援してやろうか、と」

それまで岡田さんの地元(小手指)には議員がいなかったので、「地元の人たちが一体となって応援してくれたことが大きい」とも語った。「逆に、お父さん・お母さんがたくさんできて。なんか私の方が育てられちゃってるって感じなんです」

## 中大つてすごいよ

所沢市といえば、じつは斉藤博市長も中央大学OB(61年商学部卒)である。市役所全体では中大OBの総勢じつに60人、なのだという。

「選挙を通じてそうなんですけ

ど、中央大学というのは、外の世界ですごく評価が高いのよ。大学の中心ではみんな中大生だから良さも悪さもわかんないでしょ。お互いすごいと思つてないでしょ(笑)。

ところが選挙に出ると『あなた中央大学出てるの、偉いわねえ』って声掛けられる。すごいわねえ、つてよく言われたんですよ。そんなすくはないけどね(苦笑)。

市役所に入つて……斎藤市長をはじめ大勢の中央大学の先輩が親切にいろいろと教えてくださるんですよ。特に地方自治体では「中大闊(?)」つてのがあつて、どこの市役所にも絶対中央大学がいるつて言われた。たぶん、多摩市役所でも日野市役所でも絶対いるんですよ。中大闊つていうか、中央大学の凄さつていうのを、(大学の)外に出て実感しました」

なんだかうれしくなる話。その大を内側から見た、岡田さんの実感的・中大生論も急いで付け加えよう。「私は社会人やつて、3月31日まで会社で働いて、4月1日が入学式だったんですよ。で、一つね、やつ

ぱりジェネレーションギャップつていうか、感じたのは、なんか(周りの学生が)トロイなあ、つて(苦笑)。全体的にゆっくりしているつていうか、動きとか行動とか、何につけてもゆっくりしている。働いていた自分から見ると、スローだなつと(笑)。で、私もそのペースに合わせてスローダウンするのに、少し時間がかかったんですけど、今はスローダウンして学生やつたでしょう。そこで急に社会人(議員)に復活したら、逆に早さについていけないなつちやつてね、ハハ」

身に染みます。心当たりがあります。ハツラツと清新に。支援の輪に包まれて、7月には「岡田しずか事務所」もリニューアルした。ちなみに、「21議員クラブ」は36人の議員中21人が集まった、つまり最大会派。現役中央大学生市議が真価を発揮するのはこれからである。

4658票の重みを背負つて——夏の間も、休みなく地元を駆け回る日々が続いた。「盆踊りもハシゴして、でも楽しかったわ、学生気分だ」